

創立50周年記念論文集の発刊にあたって

スポーツ健康学部長 野村良和

「名古屋学院大学論集」の創刊号が発行されたのは、本学の開設間もない1964年7月と伺っている。このような迅速な対応と以後今日まで発展しつつ継続されてきていることについては、これまでの多くの関係者に対して心より敬意を表するところである。

大学に対して社会が期待することは学生への教育・指導であると同時に、それを裏付ける研究の推進である。この大学への期待は言い換えれば大学関係者への期待と言い換えることができよう。このことを受ける形で、2013年に策定された「名古屋学院大学中長期計画—Look Forward 2014-2023—」の中の「研究ビジョン」において、「優れた教育を推進するために、自由闊達な研究環境を維持し、創造的研究に取り組み、社会や産業界の発展を支える研究拠点を形成する」と述べられている。そしてこのビジョンを実現するためのいくつかの方策として、「①研究の活性化を促進する仕組みを導入する」「②研究の推進・支援体制を充実させる」「③社会人大学院の質向上を図る」「④高度な研究実績を有する教員を採用する」、そして「⑤海外の大学や研究機関との間で、教員レベルの研究交流を進展させる」ことがあげられている。これらを達成するため、あるいは進展させるために大きな役割を担っているのが本学の論集であろう。

スポーツ健康学部は、その前身である人間健康学部の性格も引き継いでおり、実に数多くの学問分野と深い関係を持っている。学部のカリキュラムあるいは学部教員の専門領域をご覧いただければ理解いただけようが、大まかにはスポーツ科学と健康科学にまとめられる。このスポーツ科学には、いわゆるスポーツ実技に深く関連するスポーツコーチングやスポーツトレーニングの領域にとどまらず、それらを自然科学的側面から支えるスポーツ生理学・生化学、スポーツ栄養学などに加え、スポーツ哲学・歴史、スポーツ心理学、スポーツ経営学、スポーツ行政学、スポーツ社会学などの人文社会科学的な領域も含まれる。さらにアダプテッド（障がい者）スポーツもある。また一方の健康科学には、医学、生理・解剖学、心理学などの基礎的領域のみならず、公衆衛生学、体力学、健康教育学あるいは福祉学という応用・実践的領域も含まれる。

以上を勘案すると、本学部は現在発刊されている多種の『名古屋学院大学論集』と深い関係を持っていることとなる。すなわち本学部及び本学部の教員が社会に対して発信する重要な窓口が数多く用意されている。

この度の50周年という大きな節目を迎えた後も、本学の研究論集がますます充実し、個人研究及び集団研究の成果等を示すことにより、本学教員及び本学の社会的評価が一段と高くなることを大いに期待する。

まさに「LOOK FORWARD 未来をともに進もう」。